

データ等から見た医療圏の特徴

| | |
|------|---|
| 名古屋 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 大都市 2 次医療圏で、人口は大阪市医療圏、札幌医療圏に次いで全国で 3 番目に多い。大学病院や救命救急センターなどの医療機関、医療従事者など医療資源も豊富。 ○ 他圏域や県外から流入患者が多い。 |
| 海部 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 2040 年に向け人口減少の割合が大きい。64 歳以下人口で減少割合が大きく、65 歳以上人口は増加するが、他圏域に比べるとあまり大きく増えない。 ○ 患者は名古屋医療圏へ多く流出しており、特に高度急性期では 5 割弱が流出している。一方で高度急性期を中心に県外から多く患者が流入している。 |
| 尾張中部 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 面積が 41.9 km²で、全国で 344 ある 2 次医療圏の中で最も面積が小さい。 ○ 500 床以上の病院や救命救急センター、公立病院及び精神病床は 0 で、人口 10 万人当たり医療施設従事医師数も少ない。 ○ 自圏域の医療機関へ入院している患者の割合は 4 割弱で、多くの患者が名古屋医療圏へ流出している。 |
| 尾張東部 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 2025 年に向け人口は増加し、2040 年には減少するものの、減少割合は他圏域と比べ小さい。65 歳以上人口（特に 75 歳以上人口）の増加率が高い。 ○ 大学病院が 2 つ、救命救急センターが 3 つあり、人口 10 万人当たり医療施設従事医師数も多い。 ○ 他圏域から患者の流入が多く（約 5 割）、名古屋医療圏との間で流出、流入ともに多くなっている。 |
| 尾張西部 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 2040 年に向け人口減少の割合が大きい。64 歳以下人口で減少割合が大きく、65 歳以上人口は増加するが、他圏域に比べるとあまり大きく増えない。 ○ 患者の流出は 2 割弱で、流出先は名古屋医療圏、尾張北部医療圏、県外が多い。一方、流入は 1 割強で、尾張北部医療圏、海部医療圏からの流入が多い。 |
| 尾張北部 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 患者の流出、流入はともに 2 割前後である。流出先は主に名古屋医療圏、尾張東部医療圏、尾張西部医療圏であるが、流入では県外から最も多くなっている。 |

| | |
|--------------|---|
| 知多半島 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 500 床以上の病院が 1 つもなく、民間病院の割合も低い。 ○ 3 割以上の患者が流出しており、主な流出先は名古屋医療圏、西三河南部西医療圏、尾張東部医療圏である。流入は少ない。 |
| 西三河 北 部 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 2025 年に向け人口は増加し、2040 年には減少するものの、減少割合は他圏域と比べ小さい。65 歳以上人口の増加率が高く、特に 75 歳以上人口は 2040 年には 2013 年の 2 倍以上となる。 ○ 患者の流出は約 2 割、流入は約 1 割である。主な流出先は尾張東部医療圏、西三河南部西医療圏、名古屋医療圏となっており、主な流入先は西三河南部東医療圏、西三河南部西医療圏、尾張東部医療圏となっている。 |
| 西三河 南 部 東 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 2025 年、2040 年に向け 65 歳以上人口の増加率が高く、特に 75 歳以上人口が大きく増える。 ○ 民間病院の割合が高い。学校法人藤田学園が平成 32 年に 400 床規模の大学病院を開設する旨、岡崎市と協定を締結している（平成 27 年 3 月 27 日）。 ○ 患者の 2 割強が流出しており、主な流出先は西三河南部西医療圏。流入は少ない。 |
| 西三河 南 部 西 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 2025 年に向け人口は増加し、2040 年には減少するものの、減少割合は他圏域と比べ小さい。65 歳以上人口（特に 75 歳以上人口）の増加率が高い。 ○ 患者の流出は 1 割強で、主な流出先は尾張東部医療圏である。一方、患者の流入は約 2 割で、知多半島医療圏及び西三河南部東医療圏から多く流入している。 |
| 東三河 北 部 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 2040 年に向け人口が大きく減少し、65 歳以上人口も 2025 年には若干増加するものの 2040 年には減少する。75 歳以上人口も 2040 年に向けほとんど変わらない。 ○ 500 床以上の病院、救命救急センター及び精神病床がなく、民間病院の割合も低い。人口 10 万人当たり医療施設従事医師数も少ない。 ○ 患者の 4 割弱が流出しており、流出先は東三河南部医療圏である。 |
| 東三河 南 部 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 2040 年に向け人口減少の割合が大きい。64 歳以下人口で減少割合が大きく、65 歳以上人口は増加するが、他圏域に比べるとあまり大きく増えない。 ○ 人口 10 万人当たりの療養病床数が多い。 ○ 患者の流出は少ない。流入は 1 割弱で、東三河北部医療圏、県外から流入がある。 |